


月報 2025 年 12 月 31 日 NO418

12 月号

四方通信



石城山岳会事務局編集

紅葉の裏巻機溪谷

栃木百名山・持丸山(1,366m)

小名浜の「富士山」(90m)

個人山行『初冬の八ヶ岳』

紅葉の裏巻機溪谷

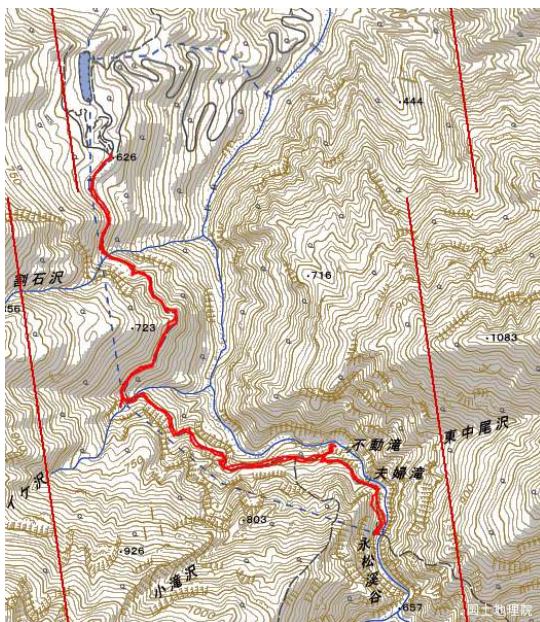
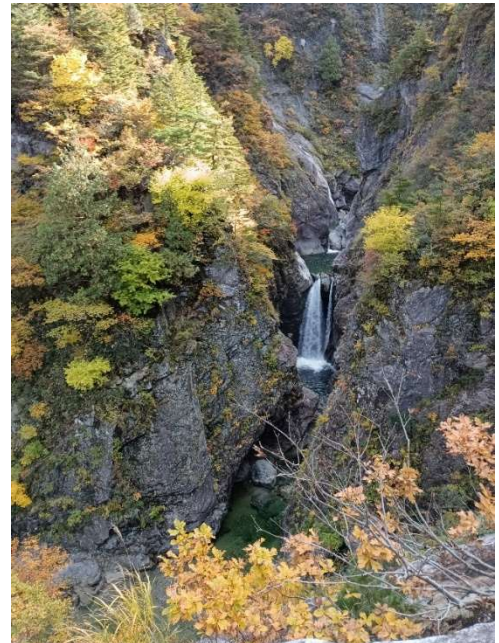
2025年11月5日(水)

山縣、安部、秋葉

百名山でもある巻機山はスキーや沢登りでも有名なところだが。裏巻機溪谷というとても素敵な所があると聞いて、居ても経ってもいられなくなり出かけた。関越自動車道六日町ICで降り、五十沢キャンプ場まで約20分。ここで受付300円を払い、ゲートを開け「みやて小屋」まで車で行ける。周りの山々は初雪で綿帽子を被っている。

みやて小屋から遊歩道となっており割引沢、不治心得の岩、坪池沢、大ヒド沢、小滝沢、不動滝、夫婦滝など、いたるところで巨石や大小さまざまな滝を見ることができる。取水口付近は水と小石により長い年月をかけてできた甌穴を見ることができる。

取水口からはピストンとなるり、往復2時間半程の行程だが、新雪、紅葉と滝の輝き、往路とはまた違った景色を楽しむことができた。



【コースタイム】

7:40 駐車場 (割引沢、不治心得の岩、坪池沢、大ヒド沢、小滝沢、不動滝、夫婦滝) 11:20 駐車場

(文責：秋葉)

栃木百名山・持丸山(1,366m)

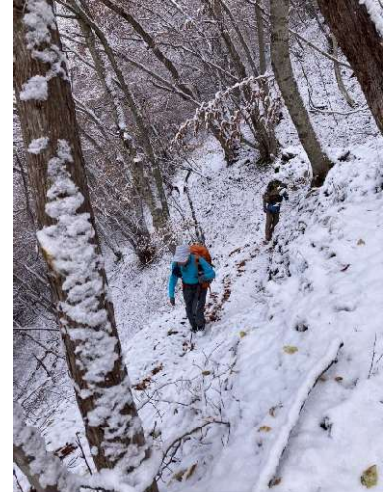
2025 年 11 月 19 日 (水)

松本、秋葉、安部

持丸山は湯西川と三依の境に位置し、芹沢の支流持丸沢の奥にひっそりたたずむ自然豊かな山です。上の方は雪があると思っていたが、薄っすらとだが道路にも雪があるとは想像外だった。

道の駅「湯西川」で合流し、三依小学校から芹沢沿いに約 2 km 進み、「丸太工房あくつ」を左折し持丸橋を渡った所のお墓の駐車場に車を置く。

林道は工事中で迂回路に行く。所々ガレている持丸沢沿いの林道を進み、入口が分かりにくい送電線巡視路を登る。急登と雪で中々大変だ。



114 号鉄塔を過ぎ、太陽が出てきて、急登は続くがブナ林の中で気持ちが良い。

頂上は藪で展望はないが我々だけの貸し切りだ。下りは軽アイゼンを着ける、落ち葉と雪で団子になり叩き落しながら下る。

距離：7.3 km

累積標高差：714m

時間： 5 時間 15 分

締めくくりに、駐車場でランニングボーラインのロープワークを行う。

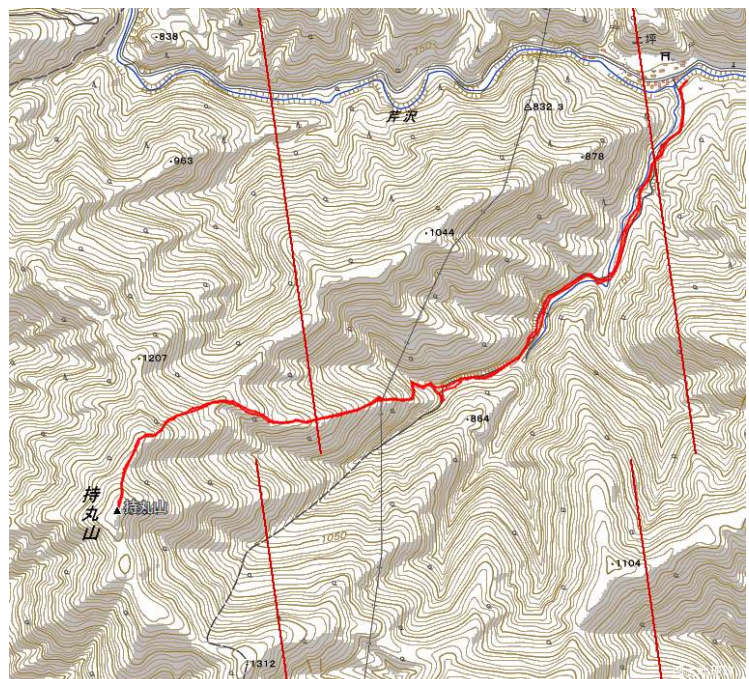
【コースタイム】

8:20 登山口 → 8:36 滝見橋 →

10:55 持丸山 → 13:17 滝見橋

13:38 登山口

(文責：秋葉)



小名浜の「富士山」(90m)

2025年12月15日
松本、秋葉、山中、吉田

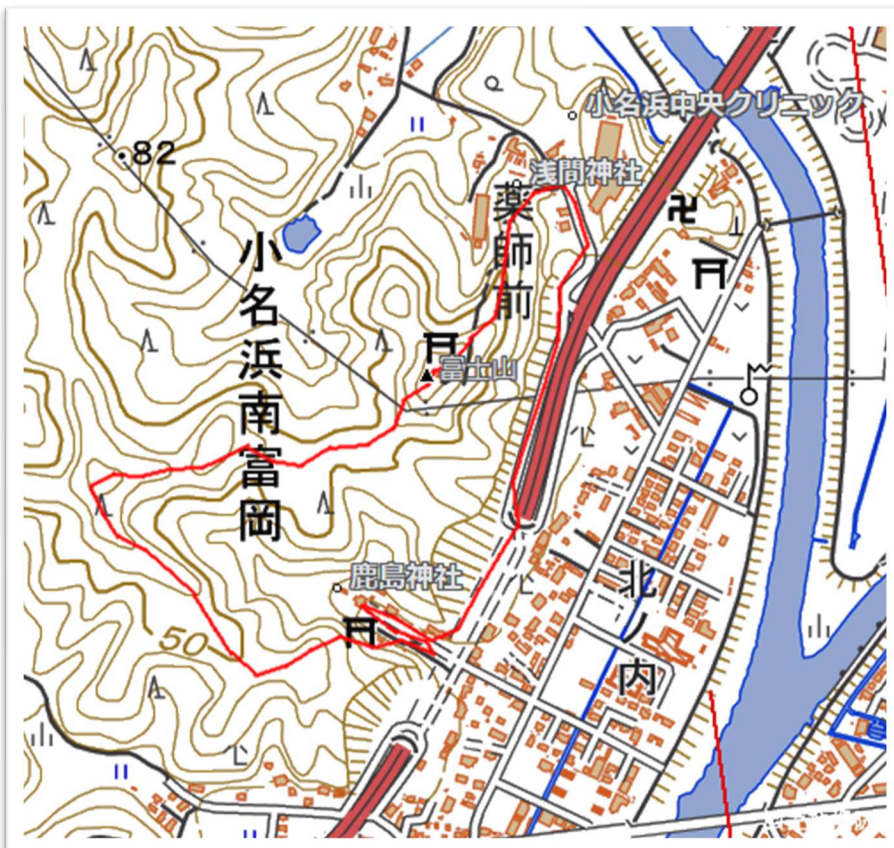
全国各地に「おらが富士山」があり、それぞれの地域で親しまれている。いわき市では「絹谷富士」「滝富士」「高野富士(別名：一の森)」、小名浜南富岡にある「富士山」です。

小名浜中央クリニック入口の反対側に浅間神社がありそこから登り始める。15分程登ると浅間神社廃屋があり由来を顕わした石碑が立っている。かつては「おふんさん」と親しまれ沢山の人に登られていたらしい。



碑によると、2011(平成23)年3月11日の東日本大震災によって神社は全壊。何とか再建しようとしたが無理で、この地での再建は断念し参道入り口に社殿を新築、御心霊を遷したとある。

頂上からは阿武隈の山や小名浜港などの展望が良い。ここまでは一寸物足りないので尾根沿いに歩いて鹿島神社経由で一周することにする。倒れた祠



などもありかつては歩かれていた路だったことが伺われます。日々のトレーニングに最適の山です。

距離：20km

時間：70分

累積標高差：100m

(文責：秋葉)

個人山行『初冬のハケ岳』

2025年12月20、21日

高倉、種市、比佐、中根、西田、吉田（教室生）、他一名

青と白の世界を求めて、3年連続初冬のハケ岳へ。今回のメンバーには初参加の中根さん、教室生の吉田さんがいたが、半数以上は冬山の経験があり、強力な助っ人田淵さんが加わったこともあって、赤岳を目指す計画を高倉さんが提案してくれた。事前打ち合わせでは、私も初参加の二人に寒さ対策などのアドバイスをするが、まさかの暖気の影響が心配される天気予報。前日の夜に赤岳鉱泉のインスタをチェックするとアイスクャンディもオープンを翌週に見送るとのこと。『初冬のハケ岳2025』はどんな山行になるのか、あまりイメージできないまま当日を迎えた。

5時いわきを出発。順調に進み10時に美濃戸口駐車場に到着。雨が降ったり止んだりのどんよりした空。雪はうっすら残っている程度だった。美濃戸山荘までの林道は少し凍っていて、下山してくるほとんどの人がチェーンスパイクをはいていた。分岐で恒例の写真撮影をして北沢ルートを進む。雪も氷もないわけではないが、溶けて水っぽさが目立つ。もちろん行動中はハードシェルの出番はない。13時40分赤岳鉱泉到着。日没までまだ時間があるので、アイゼンでの歩行練習を兼ねて硫黄岳方面へ登ることにした。中根さん、吉田さんはアイゼンの装着にまだ慣れない様子。二年前は自分もそうだったなあ二人の姿を見て思い出した。初めてアイゼンをつけて歩いた時は刃でズボンを破いてしまったこともあった。内股にならないようにという高倉さんの指導もあってか、慣れないながらも二人とも上手に歩いていた。15時30分まで登り、標高2,374m地点で小屋に引き返した。少し夕焼けの林の中を戻ると昼間より天気は回復しており、阿弥陀岳がくっきりと見えた。着替えを済ませて忘年会スタート。今年も夕食には名物のステーキをいただいた。夜はマムートナイトに参加。じゃんけん大会では吉田さんがレディースのシャツを勝ち取った。消灯とともに部屋のストーブも消えたが寒くはなく快適に眠ることができた。

翌日、6時朝食。玄関の温度計はマイナス2℃で今までで一番気温が高かった。暗いうちは星が出ていたが、外に出てアイゼンをはく頃には青空は隠れてしまった。午後からは雨の予報だが、とりあえず赤岳に向けて歩き始めた。しかし、出発してまもなくすると、吉田さんのアイゼンがずれてしまうとのことでストップ。下山田さんのおさがりのアイゼンが吉田さんの登山靴と相性が悪かったようで、歩いているうちにはずれてしまうらしい。高倉さんが何度も調整したが結局はずれてしまうため、最終的に田淵さんが自分のものと交換してくれた。行者小屋に全員が揃ったのが8時10分。予定では地蔵尾根に登ることになっていたが、南風が強かったため文三郎尾根に変更となった。文三郎尾根は階段が斜めに傾いていたり、中途半端に雪がついていたりでよく注意しなければならなかったが、全体としては歩きやすい登山道だった。稜線の分岐に出たのが10時。午後の天気を考えればここで下山した方が良いかもしれないと思ったが、田淵さんの「ここまで来て勿体ないですよ!!!」という発言で山頂を目指すことが決定した。この先、山頂までは岩登り要素があるので慣れない吉田さんはペースが上がらず、中根さんも体調が万全でなく不安そうだったので、中根さんを高倉さんが確保し、吉田さんの前には田淵さんについてもらいサポートしてもらった。気分的に雨は嫌だったが冬山の条件としては悪くなく岩場も思っていたより登りやすかった。10時50分山頂。冬の赤岳山頂に立てると思ってなかったので嬉しかった。12時過ぎに行所小屋に戻り各自昼食をとって南沢ルートで美濃戸口へ戻った。

（文責：西田）

(コースタイム)

【day1】10:20 ハケ岳山荘→11:25 美濃戸山荘→13:40 赤岳鉱泉

14:25 赤岳鉱泉→15:30 標高 2374m→16:00 赤岳鉱泉

【day2】7:00 赤岳鉱泉→8:10 行者小屋→10:00 分岐→10:50 赤岳山頂→12:00 行者小屋

→14:40 美濃戸山荘→15:30 ハケ岳山荘

(赤岳山頂)



(赤岳鉱泉にて)

